

設楽発掘通信

No.55
令和2年
8月号

胡桃窪遺跡の地元説明会を開催します

今年度の設楽ダム関連の発掘調査は、梅雨明けが遅く、雨が多かったため、大変苦労しておりました。しかし、関係する方々や、地域の方々のご協力により、調査を進めることができました。改めてお礼申し上げますと共に、今後とも埋蔵文化財の発掘調査にご理解・ご協力を賜ることができれば、幸いです。

さてこの度、胡桃窪遺跡において、地元のみならず、調査の途中経過をご報告する機会を得ることができました。胡桃窪遺跡では、灰釉陶器の破片が出土した竪穴状遺構、縄文時代中期の土器が埋められていた竪穴建物跡などが見つかりました。特に、この縄文土器は、残存状態も大変良好で、貴重な資料となります。

説明会の日程は、下記にもありますように、九月十九日の土曜日に実施します。当日は、新型コロナウイルスの感染予防のため、定時の遺跡説明は行いません。土曜日の午前十時から午前十二時と、午後一時から午後三時までの間に、出土遺物の展示と資料配布を行い、調査員が随時、ご質問にお答えします。駐車場が狭いため、また「密」を避けるために、少しお待ちいただく場合がございます。ご了承ください。なお、参加される方々には、新型コロナウイルス感染予防対策のために、お名前と連絡先のご記入をお願いします（頂いた情報は、感染予防対策以外には使用いたしません）。

今後の感染状況によっては、地元説明会を中止する場合もございます。その場合は、当センターのホームページにご案内を提示します。よろしくお祈りいたします。（堀木真美子）



写真1 胡桃窪遺跡 A区全景

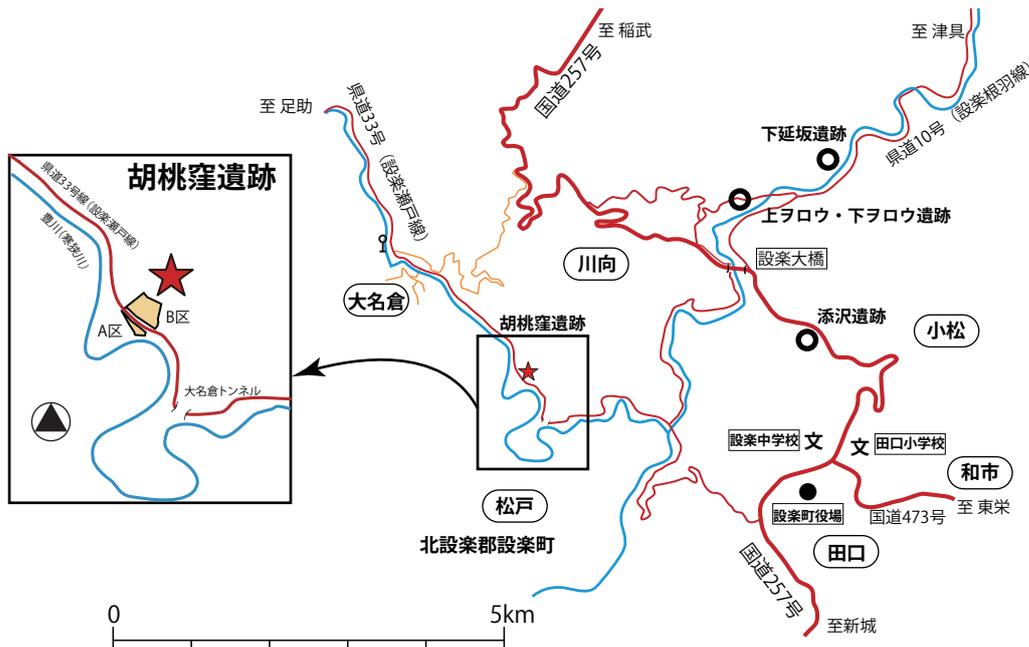
胡桃窪遺跡 地元説明会 会場のご案内

9月19日（土）午前10時～12時、午後1時～3時まで遺跡現地で遺物の展示、資料配布を行います。

現地の駐車場は、数台しかございません。密を避けるために、少しお待ちいただく場合がございます。

なお、ご参加の方々には、ご名前と連絡先のご記入をお願いします（感染予防対策以外には使用しません）。

*開催の詳細・お問い合わせは、愛知県埋蔵文化財センター調査課（電話 0567-67-4163）、堀木携帯（080-1571-4984）まで。



くるみくぼ 胡桃窪遺跡の調査

縄文時代の竪穴建物跡！

胡桃窪遺跡は、前回お伝えした南側A区の遺構掘削がほぼ終わりました。大きな岩や木の根の跡がほとんどで、主だった遺構や遺物は残念ながら確認できませんでした。

遺跡の北側B区では四つある段のうち、二段目と三段目の東側半分の遺構検出を行っています。二段目からは前回の設案発掘通信でお伝えしたとおり、竪穴状の遺構が二基確認されました。一基は、灰釉陶器の他に、火を燃やした跡である焼土が見つかり、古代の遺構と思われます。もう一基は遺構埋土から縄文土器の破片が見つかったため、縄文時代の竪穴建物跡と思われます(写真2)。またB区の三段目からも、縄文土器を伴う竪穴状の遺構が一基と、時代不明の竪穴状の遺構が一基、検出されています。三段目の縄文土器は残りが非常に多く、その文様と形から縄文時代中期後半のものと思われる(写真3)。

B区ではまだ一段目と四段目の全面と、二段目と三段目の西側で遺構検出が残っており、今後の調査で遺構や遺物が期待されます。

今日は、連日の雨の影響で調査ができなかったA区の残りの調査を行い、その後、B区の残りの本格的な調査に移りたいと思います。

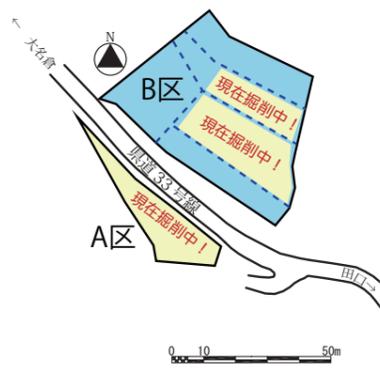


写真2 B区2段目 縄文時代の竪穴建物跡



写真3 B区3段目出土 縄文土器

しものべさか 下延坂遺跡の調査

縄文土器や剥片が見つかる！

六月より調査を始めた川向にある下延坂遺跡の途中経過です。七月は梅雨の長雨により先月お伝えした調査範囲のA区北東側は写真4のような水没状態となり、梅雨明けを待つて調査をすることになりました。その間は、晴れ間に水が湧かない場所の調査をすすめました。現在調査を進めているA区の南部は、北西の山からの斜面となっており、その中に東西の緩やかな起伏がみられます(写真5)。遺構と遺物はそのやや谷状になる範囲から比較的多くみられました。遺物の整理は進めておりませんが、縄文土器と思われる土器片や、石器の素材となる剥片が、土坑などの遺構やその周辺から出土しました(写真6)。

来月号には新しい成果をお伝えしたいと思います。

(渡邊 峻)



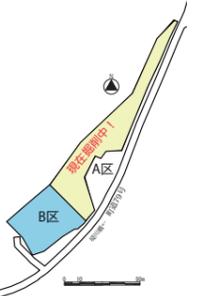
写真5 A区南側の調査風景



写真6 土坑の調査 (058SK)



写真4 山からの湧水があるA区北東側



かみ 上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の調査

江戸時代の遺構と

縄文時代の遺物発見！

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡では、新しい発見がありました。前号では、A区の山側の遺構検出状況についてお伝えしましたが、その山側で江戸時代の柱穴列が検出されました(写真7)。深い掘り込みと柱跡も明瞭で、残存状況が良好でした(写真8)。また、これら柱穴は、八基確認されており、四基ずつ一直線状に並んでいます。また、柱穴やその周辺の土坑からは、焙烙鍋の破片や山茶碗など室町時代から江戸時代の遺物が出土しています。

A区の川側に近い範囲では、縄文時代の遺物が出土しています。ここでは、遺物の出土状況から、黒色土に晩期(三二〇〇年前〜二五〇〇年前頃)、その下層の暗褐色土に中期後半(五〇〇〇年前頃)の遺構が展開すると推測されます。特に、縄文時代中期後半の遺物が大量に出土しているため、遺構の残存状況も良好だと推測されます。また、縄文時代晩期の黒色土も、焼土が四ヶ所確認されており、炉跡と竪穴建物跡が検出される可能性が高いため、今後の調査が期待されます。

(田中 良)

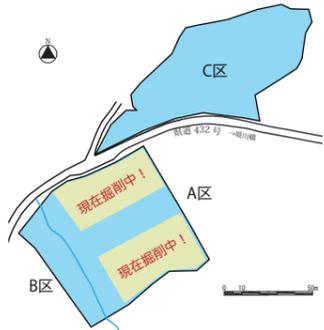


写真8 柱穴 1030SP(白線部分が柱の跡)南から



写真7 江戸時代の柱穴列(矢印が柱穴)南から

そえざわ 添沢遺跡の調査

本発掘調査Aは終了しました！

設案町田口地区に位置する添沢遺跡では今年度、遺物や遺構の範囲を調べる本発掘調査Aと、調査範囲全体を掘り下げの本発掘調査Bの両方が行われます。

そのうち、本発掘調査A(写真9)は既に完了しました。今回設定された範囲では、遺物や遺構が見られないことが判明しました。

一方の本発掘調査B

は、A区とB区の二箇所に分けて調査を行います。調査範囲を調査するため天候の影響を受けやすく、長雨によって停滞を余儀なくされています。しかし、最近堆積した層である表土の除去がB区ではほぼ終わり、遺構の調査に入ることができそうです。遺物も少数ですが縄文時代の石器(写真10)なども鎌倉時代の山茶碗の破片がいくつか見つかりました。

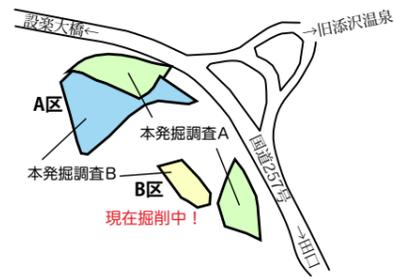
(河嶋優輝)



写真10 剥片の出土状況



写真9 本発掘調査Aの様子(土層の確認)



胡桃窪遺跡の竪穴状遺構（平安時代）

竪穴建物跡、あるいは竪穴住居跡といえ、設楽ダム関連遺跡群の発掘調査においてよく聞かれる用語です。この地域では、特に縄文時代の検出例が多く、平成三十年度の滝瀬遺跡で検出された縄文時代早期（草創期まで遡る可能性も）の竪穴建物群は県内最古級と話題になりました。また、各遺跡で縄文時代早期から晩期の竪穴建物跡も多く見つかっています。

このように竪穴建物跡といえば縄文時代のイメージが強いですが、「竪穴状遺構」と呼ばれる竪穴建物跡はご存知でしょうか。実はこの「竪穴状遺構」も同じような竪穴建物の跡なのですが、古代以降の竪穴建物跡を「竪穴状遺構」と呼び変えることがあります。この理由はいくつかあるようですが、以前は古代よりも後の時代には竪穴建物（住居）は無くなって、掘立柱建物に変わっていくとされていましたが、近年、発掘調査がたくさん行われた結果、平安時代や鎌倉時代の「竪穴建物跡」が数多く見つかり、古墳時代以前の「竪穴建物跡」と区別するためにそのように呼ぶようになった、というのが筆者の教わった理由です。

さて、前置きが長くなりましたが、今回このようなお話をさせていただくのは、現在調査中の胡桃窪遺跡の標高四百二十七メートル付近で平安時代の平面形が四角の「竪穴状遺構」が検出されつつあるからです（写真11）。設楽ダム関連遺跡群の中では平安時代の明確な遺構は比較的珍しく、遺物は見つかるものの遺構は見つかっていないという状況でした。今回検出中の「竪穴状遺構」も斜面の高い方は遺構が深く残り、低い方は削られた状態です。

同じ時代の「竪穴状遺構」は、豊田市下山区の栗狭間遺跡や蔵平遺跡で多く検出されています（写真12）。ここでは複数の「竪穴状遺構」を拠点としてキャンプ地としつつ、木材等をはじめとする山林資源の採取を行ったと考えられています。特に平安時代の後半は、このような開発行為が盛んに行われた時代ですので、胡桃窪遺跡の「竪穴状遺構」も同じような利用が想定されます。

平安時代の胡桃窪遺跡の風景をイメージすると、朝は「竪穴状遺構」付近に集合して朝礼を行い、連絡事項を伝達してそれぞれの作業場所へ移動、作業終了後には再び集合して「今日もお疲れ様でした」と言ったかもしれません。これはなかなか現在行われている発掘調査とそっくりな風景にも思えます。（鈴木恵介）



写真11 胡桃窪遺跡 竪穴状遺構 (100SI)



写真12 栗狭間遺跡（豊田市） 竪穴状遺構（2014年度調査）

設楽発掘通信

No.55

令和2年8月号

編集・発行

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24

電話 (0567)67-4161【管理課】4163【調査課】

ホームページ <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力

国際文化財株式会社

